

## シリーズ

### 樹木の増殖 接木 IV

樹木医 田口峯男

(会報7号24ページ、2. 切出し 続き)

#### 3) シーズンオフの切出しの手入れ

接木のシーズンが終わったら次のシーズンのためにも切出しナイフをよく手入れをしておくことが大切である。私は念入りに砥いで手など直接触れないようにして新しい新聞紙でよく拭いて、新聞紙で隙間のないように包み箱に入れておく。普通の油などで拭くとかえって錆びる原因になることがある。

#### <接木の実践>

これまでは接木を行うに直接必要な切出しナイフや砥石の注意点について述べたが、これからは接木を実際に行うにあたっての台木・穂木の養成、接木後の管理、活着後の注意などについて述べる。

#### 1. 台 木

台木にするには大きな樹に高接ぎをするような特殊な場合もあるが、普通の苗木を作るには幹径1.5cm前後の台木を養成する。

台木は実生・挿し木により繁殖するが、樹種の特性による樹種別の各論の項で説明する。

実生や挿し木は別の樹会に譲るが、一般には挿し木の出来ないサクラ・マツなどは実生、ウメ・アメリカヤマボウシなどは両方法が出来る。

台木の多くは2または3年生の幹径1.5cm前後のものを使用している。根系が良く、無病の充実した台木を養成することが接木の成功につながる。根接ぎはフジなどの太い根を台木として使う。

#### 2. 穂 木

落葉樹・常緑樹2年生の充実した花芽の付いていない徒長枝を穂木として用いる。2～3月に接木する落葉樹の場合は12月下旬から2月にかけて穂木を採り貯蔵する。ウメは例外で貯蔵せず、ツバキは原則として貯蔵しない。いずれにしても、接穂の状態は接木の成否に大きく影響する。

また、同じ種類・品種でも個性があり採穂母樹を選定することも大切なことである。

#### 1) 穂木の貯蔵

落葉樹は採穂して水揚げをしないで(水揚げをすると活着しなくなる)、ポリ袋などに入れ密閉状態にして2～5℃程度の低温庫に置く。2～30本程度の少量の場合は家庭用の冷蔵庫の野菜室を利用すると良い。殊に少量の方が失敗しやすいので扱いに注意する。確実な方法は、数本の穂木を先ず乾いた新聞紙などでなるべく隙間のないようにして包み、新聞紙に軽く霧をかけ湿らせてポリ袋に入れ密閉して貯蔵する。

土中深さ30cm程度に埋め込み貯蔵してもよい。この場合水が溜まる所や、極端に乾燥する所は避ける。

#### 2) 穂木の養成

管理上で剪定を行う樹木は、徒長枝が発生するが、サクラなどの天然記念物の遺伝子保存のため接木をする場合、強剪定をして徒長枝が発生させる必要がある。規則上いろいろ問題があるようだが、台風などで太い枝が折れた場合は徒長枝が発生し易くなるので、その利用も考えられる。この場合でも病虫害の防除は徹底して行う必要がある。

大量の苗を生産する場合は、優良採穂母樹を徒長枝が発生しやすいように仕立てる。